

研究課題 (テーマ)	地域保健活動における新人保健師の専門職としての自己構築プロセス		
研究者	所属学科等	職	氏名
代表者	看護学部 地域看護学講座	講師	澤武 美穂
分担者	看護学部 地域看護学講座	教授	越田 美穂子
研究結果の概要			
<p>少子高齢化や健康課題の多様化が進むなか、地域住民の健康を支える保健師の役割はますます重要になっている。とりわけ新人保健師が地域に根ざした専門職として育っていくためには、現場で経験する困難や葛藤を乗り越え、専門職としての自己を構築していくことが求められる。本研究は、新人保健師が地域保健活動の現場で経験する不安や困難、成長や変化の過程を明らかにし、専門職としての自己構築プロセスを探究することを目的として実施した。</p> <p>富山市で勤務する採用1～2年目の新人保健師9名を対象に半構造化面接を実施し、Modified Grounded Theory Approach (M-GTA) を用いて分析した結果、専門職としての自己構築プロセスを構成する7カテゴリー・21概念を生成した。新人保健師は、知識と実践のギャップや組織への不適応といった困難に直面しながら、ロールモデルとなる先輩との出会い、同期との連帯、住民との関わりを通じた成功体験を重ねることで、専門職としての自己を少しずつ構築していくことが明らかとなった。プロセスは段階的・直線的なものではなく、新人保健師は現場での困難による揺らぎと、他者との関わりによる回復を往還するプロセスとして描出された。</p> <p>本研究の特に重要な知見として、第一に、新人保健師の多くが「自分から相談を切り出せない」という心理的障壁を抱え、それが自己批判の深化と結びついて孤立を招く悪循環を生んでいることを概念化した点が挙げられる。第二に、同期との横のつながりが、縦の支援(先輩・上司)と相補的に機能し、相互承認と自己の相対化を促す重要な資源であることを示した。第三に、ロールモデルが「見本を示す」役割だけでなく「聞いてよい」という関係的安全性を提供する役割をもつことを示し、新人期支援の具体的な方向性を示唆した。これらの知見は、新人保健師の育成支援を考えるうえでの実践的な示唆をもつものである。</p>			
今後の展開			
<p>本研究の成果は、学術雑誌への投稿および国内・国際学会で発表する予定である。また、本研究は新人保健師とプリセプターが相互作用を通じて専門職としての自己を構築するプロセスの解明を目指す研究計画の一部であり、今後はプリセプター側からの調査を実施し、新人側の知見と統合する予定である。最終的には、得られた知見をもとに、現場との協働により相互型育成支援プログラムを開発し、Community-Based Participatory Research (CBPR) の枠組みで実装・評価を行うことを計画している。これらを通じて、地域保健を担う保健師人材育成の充実に貢献していきたい。</p>			